

## 日本酒の輸出促進を目指す「次世代酒米コンソーシアム」の取組

酒米試験地は農林水産省の「革新的技術開発・緊急展開事業」により「次世代酒米コンソーシアム」を構成し、酒米新品種「兵庫錦」、「Hyogo Sake 85」の栽培技術の確立と普及、新品種を用いた県内酒造メーカーによる輸出用日本酒の開発を行っている。

### 内 容

「次世代酒米コンソーシアム」は2015年度農林水産省の「革新的技術開発・緊急展開事業」の研究課題「「山田錦」レベルの優れた適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術の活用による日本酒輸出倍増戦略」を実施するために兵庫県が代表機関となり、県外17の機関で構成する研究団体である。

本事業は日本酒の輸出促進のために、酒米新品種の育成や既存品種の品質向上を図り、輸出向け日本酒製品の開発を行うものである。

本県では行政、普及、生産、流通、実需等の緊密な連携のもと、研究を実施している（図）。

酒米新品種の「兵庫錦」、「Hyogo Sake 85」の高品質・安定多収栽培法の確立を行うと共に、県下の4普及センター（新温泉、朝来、丹波、龍野）の協力のもと、「兵庫錦」はたつの市、朝来

市で、「Hyogo Sake 85」は丹波市、養父市、新温泉町で現地試作を行い、県内の酒造メーカー7社で輸出向け日本酒製品を開発している。また、香港、欧州で嗜好調査を行うと共に、（独）酒類総合研究所において、酒の成分分析を実施し、輸出対象国の嗜好と新品種の酒造適性を考慮した製品開発を行っている。また、輸出促進を図るため、輸出支援組織（ジェトロ、ひょうご海外ビジネスセンター）、香港・パリ兵庫県海外事務所と連携し、香港や欧州で兵庫県の日本酒、酒米を紹介するセミナーも開催した。

### 今後の方針

酒米新品種の普及促進、日本酒の輸出促進について、引き続き関係機関との緊密な連携のもとに進めていく。

杉本 琢真（農産園芸部 酒米試験地）  
（問い合わせ先 電話：0795-42-1036）



図 次世代酒米コンソーシアム（兵庫）の連携体制